

食品流通の効率化等に関する研究会第7回会合 議事概要

平成14年11月20日(水) 9:00~11:00

於：農林水産省第一特別会議室

出席者：高橋正郎(座長)、上原征彦(座長代理)、甲斐麗子、川田一光、齋藤修、坂本多旦、清水元一、下山久信、高梨洋子、田中彰、藤原厚、持丸隆、横川竟、宮下弘の各委員・専門委員、西藤総合食料局長、山本審議官、内藤総務課長、臼杵食料政策課長、平尾流通課長、井上卸売市場室長 他

概要：

開会后、平尾流通課長より本研究会の「これまでの議論の整理」について資料に沿って説明、続いて座長より本日の会合に先立ち11月15日に開催された座長懇談会について報告の後、「これまでの議論の整理」の各項目ごとの議論に移り、以下の出席者発言があった。

「食品流通を巡る状況の変化」について

- ・ 現在の生鮮食料品の低価格状況は、量販店等の価格競争も背景にあることを踏まえるべき。
- ・ 消費者は価格志向というより価値志向なのではないか。
- ・ 消費者は単に低価格を追及しているだけでなく、安全性を含めた品質を重視している。
- ・ 安全で安いものなら消費者が購入するのは当然であり、当然のことを議論しても議論が難しくなるだけである。
- ・ 原因と結果はそれぞれ一つという訳でない。今回は現象面の整理をしたということにすればいいのではないか。
- ・ 食品専門小売店が後継者の確保難等から減少と言い切るのはどうか。情報のネットワーク化による連携強化等により、モノも集まり今後とも魅力のある商店経営ができるのではないか。
- ・ 市場間の転送がコスト増を招くというのではなく、むしろ集荷力の低下に対応したもので、コスト増を防ぐために転送に依存せざるを得ないという面がある。別のシステムがあるならば転送に頼らずに済み、コストも低下する。
- ・ 安いものを仕入れるために転送している実態もある。市場間の転送依存が高まっているのは、中小市場の中でも特に地方卸売市場ではないか。

「食品流通の効率化等の方向」について

- ・ 加工需要の拡大への対応は、流通段階だけでなく生産段階においても取り組むことが必要。
- ・ コンテナ輸送については、今後とも検討すべき課題が残っていることを踏まえ

るべき。

「卸売市場流通システムの評価」について

- ・ 実需者としてトレーサビリティに取り組んでいるが、市場外の調達ルートではできるのに卸売市場を通すとできにくいという問題を抱えている。卸売市場の中でトレーサビリティをどうするか検討する必要。
- ・ もう少し消費者の視点からの評価が必要ではないか。
- ・ 卸売市場流通の現状にとらわれない評価が必要ではないか。
- ・ 高度成長の過程で「生産」と「消費」との間をつなぐものとして「流通」が出てきたが、行政がその間を取り持つべきである。
- ・ 産直では、全てがカバーできるわけでないので「流通」が必要。ただし、時代の変化に対応したものとなる必要がある。
- ・ 市場ではトレーサビリティができにくいというのはその通りである。トレーサビリティをやるのが目的でなく、問題が生じたときに追跡できるものである必要がある。
- ・ 有機JAS制度はトレーサビリティそのもの。
- ・ 現在の卸売市場流通は、トレーサビリティが十分にされておらず、体制として不十分である。
- ・ 卸売市場流通では、原産地表示については徹底されている。表示の偽装は市場外流通で行われやすい。産地情報の伝達についても、セリでは困難であるものの契約取引では整備されている。
- ・ トレーサビリティ・システムは、我が国ではまだ整備されておらず、まずトレーサビリティについてどうしていくかという議論が必要であり、これから必要となれば、卸売市場流通はそれにきちんと対応できる。
- ・ これまでのことが問題であり、トレーサビリティはすでに取り組まれている。
- ・ 市場流通では、情報がとぎれやすく、今後トレーサビリティができるようにすることが必要。
- ・ トレーサビリティが直ちに安全を保証するものではないことに留意が必要。
- ・ 卸売市場を調達先としているのは外食等業務用だけでなく、専門小売店も重要。
- ・ 卸売市場には集荷の機能はあるが、今後食品専門小売店のネットワーク化が進めば、その求める分荷や加工の機能が十分とは言えない。今後、卸売市場は、食品専門小売店のネットワーク化の支援等も必要ではないか。
- ・ 市場でのミスマッチは、加工、トレーサビリティ等かなりあり、小売のネットワーク化への対応も必要。市場が新しいつなぎ手としての役割を果たすべき。
- ・ 市場は時代の変化に対応できていないのではないか。新しい時代に対応したものとしていく必要。

- ・ 市場の衛生面での施設整備が遅れている。
- ・ 卸売市場は新しい形に生まれ変わるべき。単に全量を引き取って値付けして流すというだけでなく、生産者に対して注文を付けるといった橋渡しの役割を果たすことが必要。
- ・ 系統農協と卸売市場との繋がり是一定の機能を果たしてきたという評価に立った上で、市場も農協も変化し、多様化する中でこれからの対応のあり方を考えるべき。
- ・ 農協との関わりについては、農協のあり方についての研究会の状況も踏まえて今後議論する必要。

「卸売市場流通の効率化等の方向」について

- ・ 食品専門小売店のネットワーク化が進むと、取扱品目・量が大きくなるので、仲卸業者を利用する取引だけでなく、卸売業者と直接取引を行うことも必要となってくる。また、大きな購買力が取引価格へ及ぼす影響についても留意しながら市場を選ばなければならなくなる。
- ・ こだわり商品などブランド化の進行は、一面では流通する商品に偏りを生ずることとなる。生産者と小売がPOSでリアルタイムで結ばれてこの傾向はさらに進むとも考えられるが、小売のネットワーク化を進める上で広汎な商品を集められるという市場の機能は今後とも必要。
- ・ 不特定多数の出荷者と不特定多数の買い手を橋渡しするのが卸売市場の基本的な位置づけであり、その点で卸売市場の公共性が保たれてきた。民間による経営革新の発揮を基本とするならば、卸売市場の業者が自由に業務を行うことは、特定の取引先のための集荷場や加工場を市場内に設けるといった動きにもなりうる。このようなことも踏まえて、卸売市場の公共性のあり方について更に議論が必要ではないか。
- ・ 卸売市場には、買いにくる側にとっての効率性の悪さと、オペレーションの効率性の悪さとがあり、これらの改善が必要。
- ・ 食品輸入が増加する中で、卸売市場が食品の安全性のチェック機能を有することが必要ではないか。

休憩の後、事務局より以上の議論を踏まえた「これまでの議論の整理」の修正案を配布、説明。

次回（第8回）会合において、今回の議論も踏まえて生鮮食料品流通の現状認識と基本的な方向についての論点整理を行うこととし、年明け以降、論点整理に基づいて、食品流通の効率化等の施策の基本方向について議論することとされた。

次回（第8回）会合は12月20日（金）午前開催の予定。

以上